第５学年○組　道徳指導案

平成２８年　　月　　日（　曜）第　時限

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　指導者

１．主題　アルバムの中のぼく　＜D－（１９）　生命の尊さ＞

２．資料名　アルバムの中のぼく（出典　明るい心）

３．主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

　　　第５学年及び第６学年の指導内容３－（１）は、「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」となっている。これは、生きることの尊さを知り、自他の生命を尊重して力強く生きようとする心を育てるとともに、生命に対する畏敬の念を育てようとする内容項目である。

　　　高学年になると、生命の誕生から死に至るまでの過程を理解することができる。また一人一人の生命は、様々な人と支え合う中ではぐくまれ、さらに生命は祖先から自分へ、そして子孫へと受け継がれていくことも理解できるようになる。その中で生命はかけがえのないものだと自覚できるようにすることが重要になってくる。そこで、自分や他の命が誕生した時の様子や家族の思いに気付く学習を通して、一人一人の命は深い愛情によって支えられてきた大切なものであることを自覚させ、自他の生命を尊重しようとする気持ちを高めたい。

（２）児童の実態について

　　　本学級の児童は、家庭的に恵まれている児童が多く、学校の行事や取り組みに対して積極的にまた温かく

　　協力してくれる保護者が多い。その中で、かけがえのない生命も子どもたちは当然のように与えられたものとして受け止め、家族や自分が生きていることをごく当たり前のこととしてとらえ、深く考えることはあまりない。また、日常生活の中では、アニメやゲームの世界等で簡単に子どもの口から「死」という言葉が出たり、友達との関わり方で投げやりな言動があったりする場面を見る。このようなことからも、それぞれがかけがえのない命をもっているという意識が十分に育っていないと感じる。そこで、命の尊さに気付かせ自他の命を大切にしていこうとする心情を育てていく必要があると考えた。

（３）資料について

　　　本資料は、車にひかれそうになった主人公が、母親に涙ながらに叱られたことを不満に思うが、後に父親から生まれたときの事情を告げられ、生命の大切さを理解していく過程が描かれている。

　　　本資料のようなけがや危険は、児童にも起こりうることであり、児童にとって身近で理解しやすいものと思われる。主人公の心情に共感させながら、母親からきつく叱られた理由や自分の生まれたときの話を聞くことを通し、生命の尊さに気付かせていくのに適した資料である。

４　ねらい

* 自分の生命は自分の周りの人々によって支えられていることを感じ取り、自他の生命を尊重しようとする

気持ちを高める。

５　準備（教）　　挿絵　文字カード　ワークシート　両親からの手紙　両親に渡す手紙

６　指導過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学　習　の　流　れ | 教師の働きかけと支援・留意点 |
| ５  (5) | １　自分を大切にしようと思ったときは、どんなときですか。  　　・地震や津波で亡くなった人や家族のニュースを聞いて、命は大切だと思った。  　　・おじいちゃんの葬式に出て、命は限りがあると感じた。 | ○　『自分の命』を普段の生活の中で自覚している児童は少ない。友達と聞き合う中で、気づかせるようにする。  〇　たった一つのかけがえのない『命』について学んでいくことを伝える。 |
| 20  (25) | ２　資料の話を聞き、話し合う。    △　もし自分だったら、家族に事故のことを話しますか。  ・けがをしなかったから、話さない。  　　・親にしかられたくないから、話さない。  　　・家族が心配するから、話さない。  ・家族が心配するから、話す。  ・危ないことになったから、話す。  ▲　自分の母親がしかりながら涙を流すとき、どんな気持ちからだと思いますか。  　　・真剣に怒っているから。  　　・自分のことを心配してくれているから。  　　・本気で怒っているから。 | ○　教師の語りで資料を提示する。  ○　語りの中で、様子をイメージしやすいように、黒板に文字カードや挿絵を示しながら進める。  ○　自分に置き換えて考えることができるように、話し合いの場を設ける。そのことで、友達の考えを聞きながら自分の考えを深めさせたい。  〇　子どもたちから『心配』の言葉が出てきたら、誰が誰の何を『心配』なのか問いかけ、考えを深めるようにする。  ○　主人公の誕生には、家族やいろいろな人のおかげであるという点を強調し、また自分に置き換えられるように、語りかけながら進める。 |
| 10  (35) | ３　ゲストティーチャーの話を聞く。 | ○　人が生まれるときの体験談を聞き、命の尊さ、家族への感謝の気持ちを持たせたい。また、自分だけではなく、他の人も同じ尊い命であることも気付かせたい。 |
| 10  (45) | ４　家族の手紙を読む。  ５　家族に向けた手紙を書く。 | ○　事前に親から誕生時のエピソードをもとに書いてもらった手紙を児童に渡す。  ○　授業の振り返りとして、手紙を書き、家族に渡すようにする。 |